

ばれっと

2011
12月
No.148

まだ*これ 合併号

●目次

- P2~3 地域に寄り添い復興支援活動を行うNPO
- P4~5 事務用ブース入居団体による震災復興支援活動~その4~
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号⑨

11月5日(土)、仙台市若林区の六郷市民センターで、「元氣！六郷復興の集い~希望の光を~」が開催されました。

この企画は、毎年開催されていた六郷市民まつりに代わり、六郷地区の住民の皆さんや関係団体などで結成された「元氣！六郷復興の集い」実行委員会による復興イベントです。

六郷市民センター玄関上の特設ステージでは、六郷中学校生徒会による「復興への叫び」も行われ、生徒一人一人が、震災や地域に対する熱い思いを叫び、集まった方々から大きな拍手がわきあがっていました。



▲六郷中学校生徒会による
「復興の叫び」

東日本大震災 ～その時～

地域に寄り添い復興支援活動を行うNPO

若林区は、仙台市内の中でも前回11月号でご紹介した宮城野区とともに、東日本大震災による津波被害の大きかった地域です。若林区内では民間団体や地域住民、そして行政がともに復興に向けた活動を行っています。今回はその協働の事例として、「六郷・七郷コミネット」の活動と、山形県新庄市との「防風林再生プロジェクト」の取り組みをご紹介します。また、8月号でご紹介した「NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク」が管理運営する海岸公園冒険広場（若林区井土）が11月に臨時開園しましたので、その様子も合わせてお伝えします。

■六郷・七郷コミネット

六郷・七郷コミネット（以下、コミネット）は、「支援をしたい人」と「被災地のコミュニティー」をつないでいるコミュニティーネットワークです。これまでニッペリア仮設住宅で毎月1回の「お茶っこ飲み会」の主催や、九州大学が来仙しての「星の観望会」、プロレスラー蝶野正洋選手の復興チャリティイベント「FIGHT&LOVE」への協力などを行ってきました。

コミネットは、行政、NPO、大学、市民センター、地域住民などで構成され、地域の多様なセクターの方々が参加しています。代表の菊地さんは六郷地域で農業を営み、六郷・七郷活性化協議会の会長も務めています。地域住民がメンバーにいる事で、地域課題や被災者ニーズを把握することができ、その課題に対し各団体が解決に向けて動くという、それぞれの組織の特徴を活かす「協働」の仕組みで地域の復興を目指して活動しています。

コミネット運営の事務局は、若林区まちづくり推進課と若林区中央市民センターが担い、各団体の調整役として動いています。事務局の鈴木誠さんに活動を行う中で工夫している点を伺うと、「地域に寄り添った活動のためには、まず人に寄り添わなくてはなりません。その上で、被災者のケアから次の一歩が踏み出せる生きる力を育むことが大切であると考え、活動してきました」と、被災者の方を第一に考える姿勢をお話して下さいました。



◀ ニッペリア仮設住宅で10月27日に行われた「お茶っこ飲み会and いも煮de smile」の様子

これからのコミネットの活動については「コミネット参加団体と一緒に考えていきますが、“場”づくりがメインになると思います。例えば市民センターを中心に、プレハブ仮設住宅にいる方、見なし仮設住宅にいる方、在宅避難されている方、高齢者から若者まで、誰もが集える“場”を設けて、“これからのまちづくり構想”や、戻りたくても戻れない地域の“地域誌”の作成など行いながら、地域の復興について取り組みたいと考えています」と鈴木さん。

市民、団体、企業、行政が力を合わせ、復興に向けて動き出し、市民協働のまちづくりは、進み続けています。

六郷・七郷コミネット

【参加団体等】

NPO法人

冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

六郷市民センター

七郷市民センター

六郷・七郷活性化協議会

東日本大震災圏域創生NPOセンター

NPO法人ハーベスト

NPO法人杜の都仙台ナショナルトラスト

NPO法人アスイク

河北新報社

若林区まちづくり推進課

若林区中央市民センター

若林ヤングコミュニティ楽園(市民センター事業)

若林区社会福祉協議会

仙台市生涯学習課

鈴木医療科学大学

【連絡先】 仙台市若林区保春院前丁3-1

若林区役所まちづくり推進課内

TEL/FAX 022-282-1111内線6136

【E-mail】 makoto_suzuki@city.sendai.jp

■防風林再生プロジェクト 実行委員会

「防風林再生プロジェクト実行委員会（以下、プロジェクト委員会）」は、山形県新庄市で防風林の苗木を育て、2～3年後に若林区内の沿岸部に植樹するという企画を進めている実行委員会です。植樹目標は2万本で、国や宮城県、仙台市の復興計画に沿った形で木を選定し育てていく計画です。

このプロジェクトは、3月12日より新庄市民有志が仙台市で食事支援を行っているを知った新庄市が、新庄市民と一緒に支援に参加したことから始まります。支援を続ける中で、被災者の方々の「防風林がなくなってさびしい」という声を聞き、防風林の再生を少しでもお手伝いしようと、プロジェクト委員会が立ち上がりました。

この動きに応え、7月には若林区の被災者の方々も新庄市で苗木を植えたり、11月に六郷市民センターで開催された復興の集いに新庄市と一緒にブース出展を行うなど、県の枠組みを超えて地域住民同士の交流が続けられています。

現在、プロジェクト実施のための協力者も募っています。ご興味のある方は、ぜひ実行委員会までお問い合わせください。



▲六郷市民センターで開催された復興集いに出席した防風林再生プロジェクトのブース



防風林再生プロジェクト実行委員会

【代表者】 実行委員長 堀江敏幸
 【連絡先】 山形県新庄市大字鳥越字南沢1386
 TEL 090-5838-6255(星川)
 【ウェブサイト】
<http://www.city.shinjo.yamagata.jp/7107.html>

■NPO法人冒険あそび場- せんだい・みやぎネットワーク

「NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク」は、子どもの「あそび場」を開設し、子どもの自由な遊びを支える活動を行っている団体です。

震災で、管理運営をしていた「海岸公園冒険広場（以下、広場）」は大きな津波被害を受けました。震災後は、仮設住宅であそび場を開設するなどしながら、再び広場に子どもたちの笑顔が戻る日を目指し、活動しています。

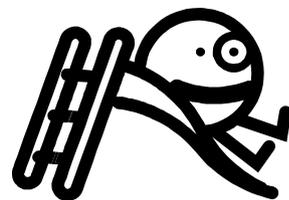
その海岸公園冒険広場が、11月20日（日）に一日だけ臨時開園しました。園内に入ってみると、駐車場の近くの施設管理棟やトイレが、ほぼ津波被害を受けたままの状態が残っています。「管理棟や周囲の松林はダメージを受け、広場から見える景色は変わってしまいました。周辺地域の復興も、まだまだこれからの段階です。その現実も知ってもらいたい」と、プレーリーダーの根本暁生さん。

一方津波を被らなかつた高台に上がると、太陽の光が降り注ぐなか、広場に來ていた子どもたちは、汗だくになりながらすべり台をサーッと滑ったり、木をノコギリでギコギコして何かを作ろうとしたり、とある女の子は遊具に「久しぶりー」と声をかけるなど、溜まっていたエネルギーを発散させるように思い思いに時間を過ごしていました。

根本さんに何うと「のべ450人の親子が來園してくれました。8か月ぶりにこの場で子どもたちの笑顔や笑い声を感じられて“うれしい”というのが一番です」と笑顔でお話して下さいました。

海岸公園冒険広場の臨時開園は、3月末までにあと2回実施される予定です。臨時開園の予定は「NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク」のホームページなどでお知らせがあります。ホームページには、仮設住宅でのあそび場の様子なども紹介してありますので、ぜひご覧になってみてください。

(菊地竜生)



NPO法人

冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

【代表者】 代表理事 大村 度一
 【連絡先】 仙台市青葉区国分町3-8-17
 日東ハイツ 202
 TEL/FAX 022-264-0667
 【E-mail】 asobo@coral.plala.or.jp
 【ウェブサイト】<http://www.bouken-asobiba-net.com/>

■事務用フース入居団体による震災復興支援活動 ～その4～

全国シェルター
シンポジウム
仙台実行委員会

被災地から女性への暴力根絶を訴える

全国シェルターシンポジウム仙台実行委員会は、東北初となる「全国シェルターシンポジウム」の開催に向けて2010年6月に発足した実行委員会です。

「全国シェルターシンポジウム」は、「世界女性への暴力防止デー」（11月25日）に合わせて、毎年開催されており、暴力被害女性とその子どもたちへエールを送るとともに、社会へ暴力根絶のメッセージを伝えています。先日開催された「第14回全国シェルターシンポジウム2011 in 仙台・みやぎ」に伺い、お話を伺いました。

●「一緒にやりましょう」と後押しされ

11月のシンポジウム開催へ向けて着々と準備を進めている最中の3月11日に、東日本大震災が発生しました。実行委員会委員長の八幡悦子さんは、被災当日、電気がない自宅で津波の被害を伝えるラジオのニュースを聞き、半年の延期を覚悟したそうです。さらに、余震が続く日々シンポジウムに来場する人はいるだろうか、ボランティアを続けてくれる人はいるのだろうかと不安になったと言います。

そんな状況下で、シンポジウム開催へ向けて実行委員会の背中を押したのは、全国からの支援と、地元個人・団体の協力でした。多くの「一緒にやりましょう」の言葉に後押しされ、11月19日（土）、20日（日）の2日間の日程で無事、「第14回全国シェルターシンポジウム2011 in 仙台・みやぎ」が開催されました。会場の変更こそありましたが、予定通りの日程で開催されたこのシンポジウムには、二日間で1,500名の参加者が全国から集まりました。シンポジウムのテーマは「災害を乗り越えてWake up人権！～暴力の連鎖を断ち切る～」。まさに、災害を乗り越えての開催でした。

●災害を乗り越えて～女性支援の視点から～

シンポジウムのプログラムにも、災害に関する内容が取り入れられました。パネルディスカッションでは、「災害を乗り越えて～女性支援の視点から～」というテーマで、NPO法人ウィメンズネット・こうべ代表の正井礼子さん、一橋大学大学院教授で精神科医の宮地尚子さん、そして八幡さんが登壇しました。

阪神・淡路大震災の直後に「女性支援ネットワーク」を立ち上げた正井さんは、阪神・淡路大震災での経験と、今回の東日本大震災で女性が置かれた立場とを比較検証してのお話をされていました。東日

本大震災では多くの女性団体の活躍が見られましたが、一方で、避難所でリーダーとして参加している女性はまだまだ少なく、避難所での食事の準備が女性の役割となっているなど、16年前の阪神・淡路大震災のときと変わっていないことも多く見られたそうです。

宮地さんのお話では、被災者支援は女性支援（DV被害者の支援）と共通するところも多いことが、精神科医の立場から紹介されました。DVの被害者にたびたび向けられる言葉「逃げればいいのに」。今回の震災では、同じような言葉が原発近くに住む被災者へ向けられました。誰もが逃げられるわけではない現実を受け止め、逃げる・逃げないの選択においても、当事者それぞれの多様性があることを受け入れる必要性が語られました。

八幡さんからは、被災地へ通い、女性支援を行ってきたお話がありました。避難所へ駆けつけたとき、とても「DV・性暴力はありませんか？」などと聞ける雰囲気ではなかったそうです。最初は、物資を配ったり、抹茶やお菓子をふるまい、手工芸やハンドマッサージを行うサロンを開きました。手工芸をもくもくと続けたり、ハンドマッサージを受けていると、被災地の女性たちも重い口を開くようになったと言います。

「女性を尊重しているグループです」「女性のために活動しています」そう伝えながら、女性たちに接すると、皆うれしそうに笑顔になったそうです。



▲パネルディスカッションの様子

●震災とDV・性暴力

また、シンポジウムでは、今年1月～9月に宮城県警に寄せられたDV相談が、前年比50件の増加であることや、7月に被災地で起きたボランティア女性に対する性暴力事件、8月に仮設住宅で女性が被害にあったDV殺人事件についても報告がありました。DV・性暴力の根絶に向けて、被災地発のメッセージが力強く会場に響いていました。

（太田貴）

全国シェルターシンポジウム仙台実行委員会

【代表者】委員長 八幡 悦子

【連絡先】TEL/FAX 022-274-1885

（NPO法人ハーティ仙台 内）

サポセン7階の事務用ブース入居団体による
様々な震災復興活動をご紹介します。

せんだい
舞台芸術復興
支援センター

震災でダメージを受けた、仙台の優れた
舞台芸術文化を市民の力で支える！

せんだい舞台芸術復興支援センター（以下、SPIC）は、東日本大震災で受けたダメージからの回復・再生・変革を目指して、舞台芸術のジャンルにおいて、アーティストやカンパニー、NPOなど専門性を有する団体・個人と被災者を含む市民を双方向に支援する、非営利の中間支援組織です。官民協働での運営を目指して活動しています。今回は、代表の森忠治さんにお話を伺いました。



▲代表の森忠治さん

●今、できることをやろう

震災直後、「まずは関係者の安否情報の収集と発信だ」と思った森さんは、ツイッターなどのネットを活用しました。震災翌日に電気が復旧し、ライフラインが使えるようになった森さん宅を訪れる舞台芸術関係者もたくさんいました。その中から口コミで得た生活情報やネットで得た行政情報をより多くの方がアクセスできるよう、発信していきました。

3月末、舞台芸術関係者数人が集まり状況を整理し、今後について話し合いました。ほとんどのホールが震災によるダメージで閉館中。カンパニーやアーティストも被災しました。被災状況は本当に人それぞれで、「今表現しなくては」という人もいれば「今はそんな気になれない」という人もいます。

「舞台芸術は時間がかかるメディアなんです」と森さん。「今すぐできなくても、必ず舞台芸術が役立つ時がくる。その時のために今のうちから準備を整えておかなければいけない」と森さんたちは考えました。「すぐやること」としてSPICの設立、すぐできないことも長期目標として整理しました。話し合いに参加したメンバーの中で、いちばん自由に動ける立場の森さんが実現に向け動き出しました。7月1日にSPICを設立し、被災したカンパニーやアーティストの支援と、舞台芸術を活かした被災者支援を始めました。



▲サポセンの地下にある市民活動シアターで行われたSPIC主催のワークショップの様子

●舞台芸術復興の第一歩

ちょうどこの頃、サポセンの地下にある市民活動シアターが再開したことを活かして、7月～8月にワークショップを開催し、同じく被災地の福島を拠点とする劇団と演劇公演の共催もしました。ワークショップは、被災したアーティストのケアを目的としたもの。「次を考えてもらう機会を提供できたと思っています」と森さん。再開しているホールが少なかったこの時期に市内での演劇公演はほとんどなく、市民に作品を提供できたことは大きいと感じているそうです。また、市民やカンパニーのニーズを知ることもできました。

●先を見据えた団体運営の工夫

現在は事業を進めつつ、事務局体制の整備にも努めているそうです。事務局人数は4名。「舞台芸術に関わりがあり、なおかつ何らかの得意分野のある人をお願いしました。例えば中間支援組織で働いた経験のある人、とか。皆さん“自分も何かしたい、役に立ちたい”という思いで引き受けてくれました」。また、復興には長い時間がかかることを見据えて、20代の若いスタッフを抜擢しました。「彼らなら、復興に30年かかったとしても50代。まだ現役です」。今は事務局スタッフ内でのミッションの浸透など、組織の土台づくりをしっかりとやっておくつもりだそうです。「復興に長い時間がかかるということは、活動も長く続けていく必要があるということ。僕らは震災後に設立した団体なので、意識して組織づくりをして、責任をもって事業を展開し続け、信頼される団体にしたい」。さらに、より公益性を担保するため、事務局案を実行する前に検討・承認を行う、有識者などで構成される委員会を作る計画を進めています。

設立から約4ヶ月。復興はもちろんのこと、アーティストやカンパニーに対しよりよい環境を整備し、市民によりよい作品を提供したいと尽力する真っ最中のため、「まだ手ごたえや充実感を感じるには遠い」とおっしゃいます。「復興が実現したと思えたら、団体名から“復興”の文字を取ろうと思うんです」と森さん。早くその時が来るように、みんなで力を合わせていきましょう。（菅野 祥子）

せんだい舞台芸術復興支援センター

【代表者】 森 忠治

【連絡先】 TEL 070-5544-5882

【E-mail】 spic.information@gmail.com

市民活動サポートセンターからのお知らせ

■10月1日(土)から一般利用を再開しました。

○開館時間 平日/午前9時～午後10時
日祝/午前9時～午後6時

○申込受付の開始日

研修室：ご利用日の3ヶ月前から
セミナーホール：ご利用日の6ヶ月前から
市民活動シアター(全日)：ご利用日の6ヶ月前から
市民活動シアター(区分)：ご利用日の3ヶ月前から
市民活動シアター(時間)：ご利用日の1ヶ月前から

○受付時間 平日/午前9時～午後9時
日祝/午前9時～午後5時

※電話予約は、申込受付の開始日の午後2時から行います。

○休館日 毎月第2・第4水曜日、年末年始

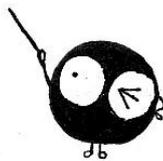
※当該日が祝日にあたる場合は、翌日木曜日が休館日となります。
※年末年始休館は12月29日～翌年1月3日です。

12月の休館日

第2水曜日 12/14

第4木曜日 12/28

※年末年始休館 12/29(木)～1/3(火)



サポートセンターの建物は築20年以上経過し、施設内設備の点検や修繕に要する時間が増えてきております。施設内設備の点検、修繕のため、これまで月1回となっていた休館日を2011年9月より月2回とさせていただきます。

サポートセンターでは、利用者の皆さまに安心、安全にお使いいただけるよう今後も努めてまいりますので、何卒ご理解ご協力お願い申し上げます。

3月28日から9月30日まで、仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の拠点として、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOにご利用いただきました。「復興支援活動団体利用受付シート」を提出いただいた団体数は、のべ308団体にのびりました。

これからも、ご要望に応じて、「サポセンかわら版」や「復興支援活動情報ブログ」へ、みなさまの活動情報を掲載いたします。ぜひ、情報をお寄せください。

●復興支援活動情報ブログ

<http://blog.canpan.info/fukkou/>

■復興支援活動報告会を開催します

東日本大震災に伴い、市民活動団体がどのように動き、復興支援活動を行ってきたかを振り返り、成果や課題を共有する報告会を開催します。

詳細が決まり次第HP等でお知らせいたします。

日にち：2012年2月4日(土)

場所：仙台市市民活動サポートセンター

お問合せ先：仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

■10月1日(土)からシニア活動支援センターが再開しました。

○開館時間 平日/午前10時～午後8時
日祝/午前10時～午後6時

○休館日 毎週水曜日

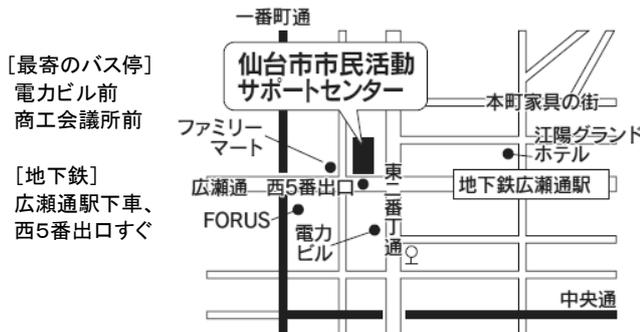
シニア活動支援センターは、シニア世代の地域・社会参加活動を応援しています。お気軽にお問合わせください。

■お詫び

ばれっと11月号(11月11日発行号)の2ページめに誤りがありました。正しくは下記の通りです。

誤：6つの町内会 → 正：7つの町内会

■案内図



[最寄のバス停]
電力ビル前
商工会議所前

[地下鉄]
広瀬通駅下車、
西5番出口すぐ

■編集後記

前号の宮城野区に続き、今回は若林区における復興支援活動の事例を紹介しました。セクターや地域を超えて、多様な人々が手を取り合って、復興に取り組んでいる様子が取材を通して見えてきました。サポートセンターも、多様な人々をつないで、ともに地域の復興へ向けて歩いていきたいと思っております。

(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2011年12月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]